



宮城教育大学 ESD・RCEニュース



平成24年6月6日

第21号

宮城教育大学ESD・RCE推進会議から、学内外のESD・RCEの取り組みやニュースをお知らせします。

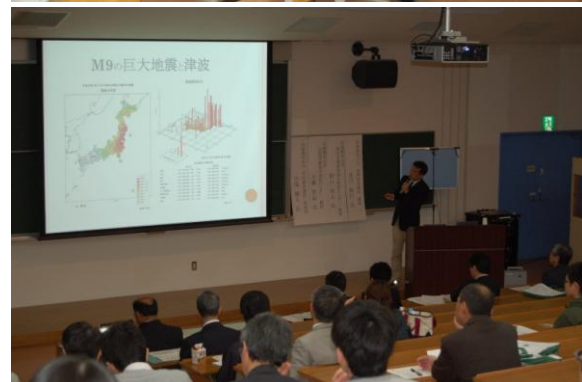
I. これまでのESD 関連事業報告

1. 教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム（5月12日・土）

宮城教育大学において、今後の教育復興支援の在り方を考える「教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム」を、本学教育復興支援センターが主催となり開催した。当日は、研究者や教員、学生など約100名が参加した。

フォーラムの前半では、宮城教育大学の教育復興支援の取り組みについて、宮城教育大学に所属する4名の先生方から、報告いただいた。特別支援教育総合研究センターの野口教授からは、沿岸の障害者の被災割合について、地区住民が日ごろから障害者らと一緒に避難訓練をしていた地域では被災割合が抑えられていたことの報告があった。国際理解教育研究センターの市瀬教授からは、震災を契機に留学生数が大きく減少しており、日本観の変化を食い止めるPRの必要性について指摘があった。

フォーラムの後半では、東日本大震災によって甚大な被害を受けた気仙沼市において教育復興に携わられている及川幸彦氏、阪神淡路大震災後に地域の復興や海外の子どもたちの防災教育に携わられている福井よしこ氏、名執潔氏をお招きし、被災地の経験を今後どのように発信していくかについて意見が交わされた。



2. グリーンウェイブ活動2012（5月22日・火、23日・水、6月5日・火）

グリーンウェイブ活動とは、国連の生物多様性条約事務局が、5月22日の「国際生物多様性の日」に、世界各地の青少年の手で、それぞれの学校の敷地などに植樹を行おうと呼びかけているもので、本学でも、5月22日（火）に開催した。

本学では、バタフライガーデンや、青葉山体験学習室、エコキャンパスミュージアム構想の様々な施設を活用して環境教育に熱心に取り組んでおり、グリーンウェイブ活動も今年で4年目となる。また、本会場である宮城教育大学青葉山キャンパスの他に、本学の呼び掛けに宮城県下で広く応じていただき、附属学校をはじめとする県内各地で開催された。

本学の植樹には、「仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員会」（本学が事務局を担当）のメンバーである仙台市環境都市推進課の方や、本学の幼児教育講座をはじめとする学生、教職員など、およそ40名が参加し、本学ミツバチガーデンの周囲に、萩10本を植樹した。

また、翌23日（水）には、本学の幼児教育講座の学生による「いのちの粘土団子プロジェクト」、6月5日（火）には、小金澤教授指導のもと「バケツ稲」が実施された。

この植樹活動を通して、生物多様性や自然環境保全の重要性、必要性について考える機会となった。持続的な活動となるよう、今後も継続して実施していくこととしている。

